

そんな中で11月7日、東京銀座新ロータリークラブ(RC)がホストとなり、第2750地区内のロータリークラブが東京銀座ブロッサムで日野原重明先生(同クラブ会員)の満100歳の誕生日のお祝いをした際に、福島県の被災者を「東日本震災復興チャリティー」講演&コーラスに招待した。

そして、われわれ第2530地区のロータリアンは、今なお帰宅できずに避難生活を続けている被災者をお連れして、早朝7時、2台のバスに分乗して福島を発った。セレモニーを体験して帰福したのは夜11時過ぎの強行軍だった。しかし、日野原先生のご講演は大変素晴らしく、被災者の心を捉え、勇気づけるものであった。

被災されたからこそ痛みを感じ、回復する力がわいてくるといってお話を耳にして、一同感激し、涙、涙のひとときだった。その後は坂本博士氏(東京世田谷RC)の指揮によるロータリーフェロシップ合唱団のコーラスも素晴らしく、地方では聞くことも見ることもなかなかできないほどのハーモニーに、参加者一同さらに勇気づけられ、福島に戻った。

関係各位に感謝申し上げるとともに被災者全員がいつまでも、いつまでも、そしてやがてもとの生活に戻る日まで、耐え忍ぶ力になることだろう。

(第2530地区 福島県)

震災がつなぐロータリアンの絆

大阪金剛ロータリークラブ

11月9日、岩手県下閉伊郡山田町の山田ロータリークラブ(RC)を訪問し、合同例会を行った。震災から8か月たったの山田町訪問であったが、津波で破壊され

たJR陸中山田駅舎は跡形もなく、家々の土台部分を残しただけの家並みのあちらこちらで、大勢のボランティアが黙々と片付け作業を進めておられた。

山田RCと大阪金剛RCとの縁は、クラブの一会員の話から生まれた。社員が震災復興ボランティアとして山田町に赴き、偶然ロータリークラブの会長に会った。「そのクラブでは野外で例会をされている」。そう報告された会員は、何か山田RCに直接届く支援、今すぐにも必要とされている支援を、とクラブ例会で提案した。私たちのクラブでは今年度10周年の周年事業を計画していたこともあり、周年事業として積み立てていた資金をクラブの活動に役立てていただけないだろうか、と考えた。そこで、10周年記念実行委員会では山田RCへの突然で勝手な申し出を行った。

それから5か月もたってからの訪問となり、合同例会で支援金を手渡した。会員の多くの方は被災されており、お忙しい中を作業着姿で出席いただいたり、また例会終了間際に駆けつけていただいたりした。「本当に来てくれた」と、喜びを語っていただいた会長の顔が今も鮮明に思い出される。

(第2640地区 大阪府)



ROTARY
JAPAN
Home Page
www.rotary.or.jp

「ロータリージャパン」www.rotary.or.jp
に「東日本大震災に関する情報」を掲載
しています。